

新しい社会保障制度を確立し、世代間格差を是正するための研究会（新世研）

税と社会保障の一体改革の法案審議と同時並行で設置された「社会保障国民会議」の報告書がまとまりました。高齢者世代にややもすれば偏りがちだった給付のあり方を見直し、「全世代型の社会保障制度」との概念が提示されています。今後、社会保障制度改革の工程表を盛り込んだ「プログラム法案」が臨時国会に提出される予定ですが、報告書や法案骨子の中身を見ると、現行制度を前提としつつ負担増と給付減による帳尻合わせの議論に終始しており、現役世代及び若者世代、更には将来世代の安心をもたらす持続可能な制度の仕組みを新たに提案する内容にはなっていません。

年金をはじめ現行の社会保障制度は、逆ピラミッドの人口構成では若い世代や将来世代に過重な負担をもたらし、いずれ制度的に立ちゆかなくなる仕組みであるのは明らかです。実際、「孫は祖父より1億円損する」と言われる負担と受益の巨大な「世代間格差」を生じさせています。

20代の2人に1人が保険料未納という国民年金の深刻な空洞化は「どうせ払っても私達はもらえない」という若者世代の年金不信に根ざしています。年金をはじめ現行の社会保障制度に内在する構造的な問題点にメスを入れない限り、「百年安心プラン」も消費税増税による国庫負担強化も、ただの弥縫策でしかありません。

本研究会は現役世代、若者世代、更には将来世代に責任を持つべき議員有志が集まり、「世代間格差」の是正策の検討を通じて、その場しのぎの微調整ではない持続可能な社会保障制度のあり方について共通理解を深める場として設定されるものです。多くの有志議員のご入会をお待ち申し上げます。

2013年10月15日

呼びかけ人一同